

	検査項目	検査対象	基準値	検査結果に関連する病気・症状
脂質異常検査	総コレステロール (TC)	総コレステロール量を測定する	140～199mg/dl	高値：脂質異常症、動脈硬化症、甲状腺機能低下症等 低値：栄養吸収障害、肝硬変、甲状腺機能亢進症等
	HDLコレステロール	善玉コレステロール量を測定する	40～119mg/dl	低値：脂質異常症、動脈硬化症等
	LDLコレステロール	悪玉コレステロール量を測定する	60～119mg/dl	高値：脂質異常症、動脈硬化症、甲状腺機能低下症等 低値：肝硬変、甲状腺機能亢進症等
	中性脂肪 (TG)	血中の中性脂肪量を測定する	30～149mg/dl	高値：脂肪肝、脂質異常症、動脈硬化症、甲状腺機能低下症等 低値：低栄養、甲状腺機能亢進症等
糖尿病検査	血糖 (空腹時)	いわゆる血糖値。糖尿病の指標として用いる	99mg/dl以下	糖尿病、慢性膵炎等
	HbA1c (NGSP値)	過去2ヶ月間の血糖値を反映する	5.6%未満	糖尿病等
	経口ブドウ糖負荷試験	ブドウ糖溶液を飲み、2時間後の血糖値を測定する	140mg/dl未満	糖尿病、耐糖能異常等
	尿糖	尿中の糖の有無を調べる	陰性 (-)	陽性 (+)・・・糖尿病等
肝機能検査	総たんぱく (TP)	血液中の総たんぱく量を測定する	6.5～8.0g/dl	高値：慢性肝炎、多発性骨髄腫、脱水症など 低値：栄養障害、ネフローゼ症候群、肝硬変等
	アルブミン	血液に含まれる最も多い蛋白質。肝機能障害の有無を調べる	4.0g/dl以上	栄養障害、ネフローゼ症候群、肝硬変等
	AST (GOT)	ASTは心臓、筋肉、肝臓に多く存在する酵素、ALPは肝臓に多く存在する	30U/L以下	高値 (ALT<AST)：肝機能障害、急性肝炎、アルコール性肝障害、肝硬変等
	ALT (GPT)	酵素。肝機能障害の有無を確認する	30U/L以下	高値 (AST<ALT)：肝機能障害、慢性肝炎、脂肪肝等 ASTのみ高値：肝機能障害、心筋梗塞、多発性筋炎、溶血性貧血等
	LDH (乳酸脱水素酵素)	糖が体内でエネルギーに変わるときに働く酵素。臓器障害が起きた場合に異常値を示す。肝臓疾患や心筋梗塞の診断時に用いる	120～240U/L	高値：急性肝炎、慢性肝炎、白血病、心筋梗塞、がん等
	γ-GTP	肝臓の解毒作用に関係する酵素。過度の飲酒により数値が上昇する	50U/L以下	アルコール性肝障害、慢性肝炎、薬剤性肝障害、閉塞性黄疸等
	総ビリルビン (T-Bil)	赤血球中のヘモグロビンが分解してできる色素。肝臓や胆のうに異常があると血液中にとどまるため、その量を測定する	0.2～1.2mg/dl	高値：肝炎、肝臓がん、閉塞性黄疸、薬剤性肝障害等
	ALP (アルカリフォスファターゼ)	肝臓・胆道・骨・腎臓・腸などに多く含まれる酵素。これらの臓器に障害があると血液中に出てくるため、その量を測定する	100～325U/L	高値：閉塞性黄疸、胆管炎、脂肪肝、骨腫瘍、甲状腺機能亢進症等
コリンエステラーゼ	肝臓でつくられる酵素の一つ。おもに肝機能障害の有無・栄養状態を確認する	男性：234～493U/L 女性：200～452U/L	高値：脂肪肝、糖尿病、脂質異常症、ネフローゼ症候群等 低値：肝硬変、肝臓がん、慢性肝炎、低栄養等	